

第4章 姉川地震を題材に想定する 防災と減災

草津市立老上中学校 七里広志

1 単元を貫く問い

- ・自然災害に対して、日頃からどのような備えをしておくべきですか。

2 育成したい資質・能力

- ・日本の自然地形の成り立ちや気候のちがい、自然災害との関連について理解する。
- ・自然災害が発生した時にどう行動するべきかを史料やハザードマップ等を読み取り、参考にして想定する。
- ・自然災害が発生した時に、自分の身を守った上で他者と協力しようとする態度を養う。

3 単元の流れ

【第1次】世界の地形と地震

【第2次】日本の山地と山脈

【第3次】地形と人々の暮らし

【第4次】日本の海

【第5次】日本の気候

【第6次】日本のさまざまな災害

- ・日本でおこる災害はどんなものがありますか。
- ・滋賀県では、どの災害が起こりうるでしょうか。

【第7次】防災と減災に向けて

- ・滋賀県で想定される危険性の高い地震は、どのようなものがありますか。
- ・下校時に地震にあったらどのような行動をとりますか。
- ・日頃からどのようなことを備えておくべきですか。
- ・学んだことを台形チャートに書き込む。

【第8次】【本時】 滋賀県の震災から

- ・姉川地震とは、どのような震災だったのでしょうか。
- ・姉川地震の記録から、当時の人たちのどのような行動が読み取れますか。
- ・日頃からどのようなことを備えておくべきですか。

4 本時（8/8時間目）

主題 滋賀県の震災から

《本時の目標》

- ・姉川地震とは、どのような震災だったのか理解する。
- ・姉川地震の記録から、当時の人たちはどのような行動

をとったのかを読み取り、自助・共助・公助に分類する。

- ・第6時以降学んだ自然災害について、日頃からどのような備えをしておくべきか、自分の意見を論述する。

《本時の学習過程》

【展開1】自助、共助、公助について理解する。

- ・教科書に記載の内容をもとに、自助、共助、公助の概念について説明する。

【展開2】姉川地震について理解する。

【問い】「姉川地震とは、どのような震災だったのでしょうか？」

○スライドなどを活用して姉川地震について説明する。

- ・1909年（明治42）8月14日午後3時半ごろ発生。
- ・地震の中心は、長浜市と米原市の境界にある山脈。（震源地や被害の大きかった湖北地域の地図を示す）
- ・M6.8。
- ・死者35人、負傷者643人。
- ・全半壊した家屋は3300戸を超える。
- ・被害の状況や写真などを示せるのが望ましい。
- ・姉川地震については以下のwebページが詳しい。

「発見地球号～滋賀の大地～」

<http://uenosato.net/daichi/index.html>

【展開3】姉川地震時の人々の行動を読み解く。

【問い】「姉川地震の記録から、当時の人たちはどのような行動をとったのでしょうか？」

- ・姉川地震は100年以上も前の地震ではあるが、滋賀県の公文書館に関連する文書がたくさん残っていて、その文書から当時の人々の様子や行動が読み取れることを伝える。
- ・対象とする5つの文書

①坂田郡震災記録

明治43年8月31日【明ふ158-3（5）】

②震災記録（東浅井郡）

明治43年頃【明ふ162-1（17）】

③震災に関し美事善行者四報

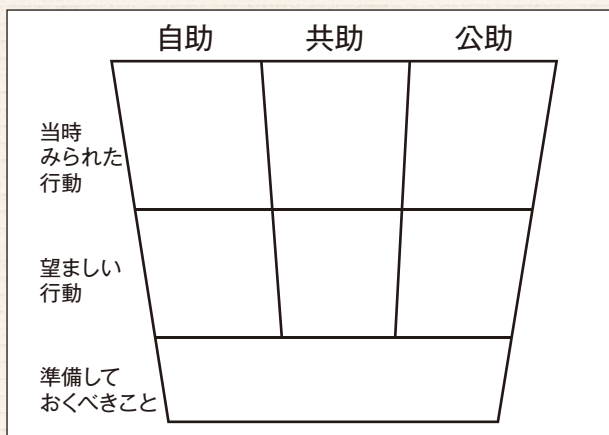
明治42年9月23日【明ふ167-2（18）】

④臨時救療所設置規程

明治42年8月27日【明ふ158-3（5）】

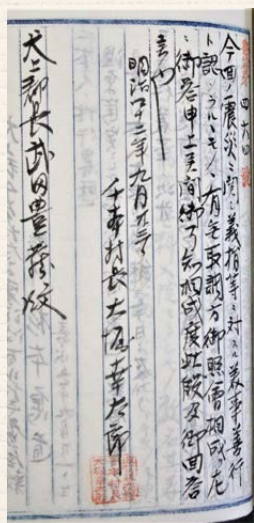
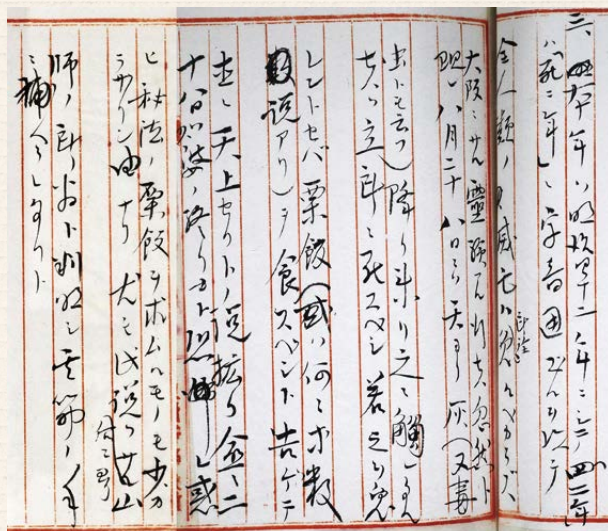
⑤罹災者救恤に付き金員下賜の件

明治42年8月21日【明え112（227）】



4-1 ワークシートの台形チャート

- ・5つの文書は、「原文の写真」、「翻刻文」、「常用漢字や現代仮名遣いによる読み下し文」、「現代語訳」を準備しておくのが望ましい（巻末資料として一部掲載、『歴史公文書が語る湖国』pp.120-121参照）。これらをタブレットで自由に閲覧できるようにしておく。
- ・姉川地震に関する5つの文書をタブレットで読ませ、ワークシートの台形チャートに「自助」、「共助」、「公助」に分けて、「当時見られた行動」と、こうするべきだという「望ましい行動」に分類して書かせる。当時すでに「望ましい行動」をしていた場合は、「当時見られた行動」が「望ましい行動」と重なる場合も出てくる。
- ・生徒を5つのグループに分け、1人につき1つの文書を担当する。各文書を調べた生徒から別グループを構成し、文書の読み取りを報告させる（ジグソー法）。
- ・各生徒が読み取り作業の対象とするのは、5つの文書のうちどれか1つでかまわないが、余裕がある生徒は、複数の文書を参考にしてよい。

4-2 震災に関し美事善行者四報 (③)
明治42年9月23日【明ふ167-2(18)】4-3 震災記録(東浅井郡) (②)
明治42年8月27日【明ふ158-3(5)】

- ・各自が読み取ったことを黒板に書かせるか、タブレットの共同編集機能で書かせる。何人かの生徒に発表させて、共有させる。
- ・各生徒が全ての資料に触れるわけではないので、各資料について調べた生徒から、「どのような資料だったか」「どのような感想を持ったか」について話させ、交流させる。
- ・姉川地震から読み取れるあるべき「自助」「共助」「公助」について確認する。

【展開4】自然災害が発生した時の態度を養う。

【問い】「自然災害について、日頃からどのようなことを備えておくべきですか？」

- ・第7時にまとめたことと、ワークシートの台形チャートに挙げた具体例や「望ましい行動」の箇所を参考にして、自然災害の発生に向けて、日頃からどのようなことを備えておくべきか、まとめの論述をさせる。
- ・早くできた生徒の論述を発表させる。

生徒論述例

姉川地震の時には、共助として臨時救療所が設置されたり、杉本医師が無償で診察して回ったりしている。被災時にこうした協力体制が取れるように、日頃から準備をしておきたい。

また、地震に対して人々が恐れおののいて夜になっても家屋に入らなかったことや、地震の後にデマが流れたこと等から、日頃から訓練を重ね、地震が起こっても対応できるように自助の準備しておきたい。